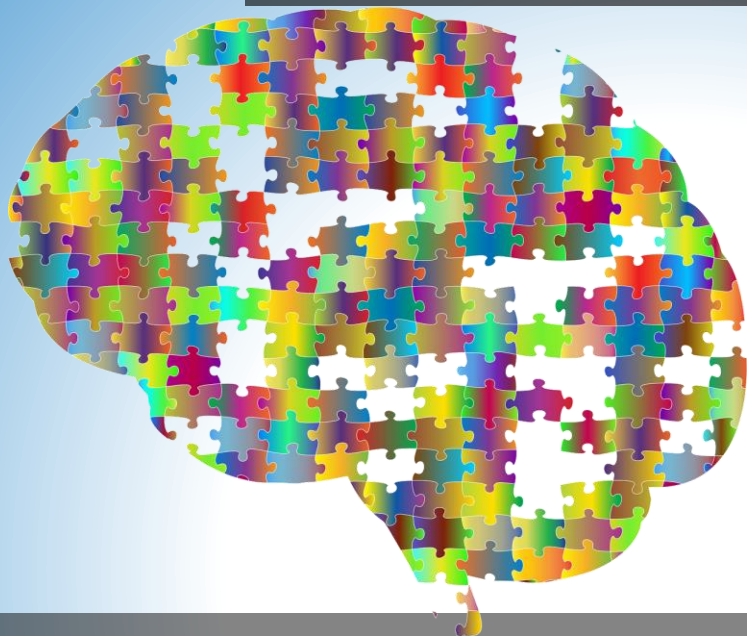


The International Brain Bee

第11回脳科学オリンピック日本大会予選

脳科学クイズを勝ち抜き、世界大会を目指そう！

中・高生参加大募集！



今年の予選大会は全国の会場で
コンピュータ用いるCBT試験
として実施します

世界大会（10月上旬）も、
オンライン開催となります

詳細（申込み・教材等）はWEBで！
（裏面も参照！）

日時：2024年4月27日（土）～5月12日（日）

申込みサイトで各会場の空き状況を確認の上、都合のよい
日時・会場を選んで受験してください。期間中1回だけ受験できます
事前申し込みが必要です。試験は1時間

申込み〆切は、実際の受験日3日前（最終は5月9日）まで

会場：申し込みサイトで確認できる全国47都道府県、200カ所以上の
実施会場・施設の中から選択して登録してください。

（会場は専用の試験会場の他、各地の提携するパソコン教室などです。会場は他の
試験等にも使われていますので、余裕をみて早めに申し込んでください。）

対象： 中・高校生 参加費：1100円（税込み：コンビニ決済）

* 予選を通過した上位入賞者によるファイナル試験を別途対面で6月に実施
（できるだけ入賞者の近隣の大学で実施します。入賞すると、以後の費用は
一切かかりません。詳細は入賞者に5月末日までに直接お知らせします）

主催/共催：日本脳科学関連学会連合（脳科連）
NPO脳の世紀推進会議
日本神経科学学会

お問い合わせ先：奥村 哲（玉川大学脳科学研究所）
ブレインビー日本ナショナルコーディネーター
e-mail: tetsuok-tmdu@umin.ac.jp

申込みサイト



脳科連HP



脳科学オリンピック（ブレインビー）とは、

中・高校生による、脳科学、神経科学、神経疾患等に関する知識を競う世界大会で、世界50か国以上に国別組織が存在します。日本代表に選抜された1名は、10月にオンラインで行われる世界大会に招待されます。4～5月に行われるCBT（コンピュータを使ったネットテスト）は日本大会の予選会に相当します。日本大会の上位（数名）に入賞すると、予選通過者として神経科学に関連する学会の見学や、ラボ見学、勉強会などに参加できます。上位入賞者（予選通過者数名）を集めた日本代表選抜大会（最終試験）は、入賞者がいる都道府県（あるいは近県）の会場（2～3カ所）において、6月に同時に対面（ペーパー試験）形式で開催します。

どんな問題がでるの？

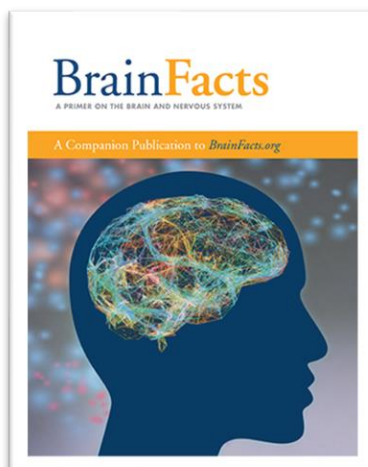
ほとんどの問題はBrain Facts Book（BFB）という英語の教科書（PDFで無料頒布）の内容から出題します。当日の出題も英語です。

BFBの理解を助けるために、BFBの日本語訳も用意しました。どちらも申込みサイトからダウンロード可能です。

例題1 **Visual information coming from one eye is processed exclusively in the contralateral visual cortex. Is this explanation true or false? False**

例題2 **Name an abbreviation of the most commonly used inhibitory amino acid neurotransmitter. GABA**

例題3 **What is the name of the fiber-like extension of a neuron by which it sends information to target cells? axon**



例年の世界大会（The International Brain Bee）のようす

例年は以下の5セッション（各2時間程度）が行われます。

- ◎第1セッション... 1問1答式の知識テスト
- ◎第2セッション... ヒトの脳標本を用いた肉眼脳解剖学テスト
- ◎第3セッション... 顕微鏡写真を用いた組織学セッション
- ◎第4セッション... 架空の患者の病歴などを再現した資料や、模擬患者との対話を通して神経内科学的診断などを行う試験
- ◎第5セッション... 公開の会場で行う1問1答式のテスト

2021年以降の世界大会は、オンライン開催となりました（今年は10月に予定）。この世界大会上位数名が、改めて2025年に国際学会などに招待されます。

セッション以外の時間は、オンラインで国際的な研究者による講座や議論が行われます。また神経科学に対する興味を共有する各国の高校生同士のオンライン交流が盛り上がります。



過去の世界大会の様子（集合写真（左）と2023年オンライン大会の様子（中）、本物の脳標本を用いたマクロ解剖セッション（右））